

# 尾張JPスポーツのティーボールの考え方

2022.12.31

## 1、母親と子供のふれあいの場とする。

将来的に、少年野球に進むための導入部として始めるものであるが、次の概念を持ってルールを決めている。

☆参加者が幼児・小学校1年生から母親まで、体格や運動のスピード等に大きな幅がある為、怪我をさせないことが最優先事項である。

**ルールは安全の下に位置するものとする。**

## 2、基本的なルール

- (1) 尾張JPのティーボールのルールは安全を確保するために、日本ティーボール協会や愛知県ティーボール協会のルールを変更して作られている部分があります。  
例えば、小さな子や初めての母親には三振させない。  
外野からの返球は、塁間ライン付近にてタイムをかける など
- (2) 将来的には少年野球を好きになってもらうこととなるが、あくまで初心者の参加を基準にするもので、高学年の軟式の考えは据え置く。
- (3) ルールは安全確保のために変更することは、常にある。
- (4) グラウンドは安全を確保して、別紙の基準で設定する。  
ただし、各会場の都合により参加者で相談の上変更することができる。

## 3、守備

- (1) 内野・外野は所定の場所で守備をする。(極端な態勢はとらない。)
- (2) 内野は常時、塁間の線より2m程度後ろに守る。(走路の確保)
- (3) 内野ゴロでのホームアウトはあるが、キャッチャーが3年生以下の場合の限る。  
外野からの返球は塁間線上付近にてタイムをかける。
- (4) セカンド、ショートは二塁近くを除き、ベースマンをつかう。  
(セカンドベースマンは打つ前は3mの円の中で守備をする。)  
(走者と守備者の移動による衝突の大きさを軽減する為。)

## 4、攻撃

- (1) 打つ方向は、構えた位置から変更しない。  
(野手の移動による事故を未然に防ぐ。)
- (2) 人数不足の場合の二度打ちは、4年生男子と母親以外とする。  
(次のイニングの先頭打者は、前回の最終打者の次の人(サイクルと呼ぶ)。)

## 5、審判

- (1) プレイからタイムまでが競技時間。  
ティーボール タイム中-----プレイ(競技)タイム-----  
少年野球 インプレイ-----タイム(中断)プレイ-----
- (2) 主審・塁審はプレイの判定をして、一連の動作が一段落したらタイムをかける。
- (3) 外野のフェアボールはファウル域でホームランラインを越えてもホームラン。  
(ベンチの延長線を超えたらタイム)